

編集後記

20年前までは、大人が小惑星のことを見聞きする機会のごく稀だったでしょう。しかし、「はやぶさ」や「はやぶさ2」の活躍が、人々の耳に届き、小惑星はぐっと身近な存在になりました。一方、小さな子供にとって、小惑星はもともと身近な天体です。多くの子供は強烈に恐竜に惹きつけられ、恐竜を絶滅させた要因として、隕石に出会うのです。それから、繰り返し、繰り返し、隕石はどこからきたのか、と周りの大人に尋ね、小惑星という言葉に触れることとなります。実際には、宇宙からきたよ、と答える大人が多くて、思ったより小惑星までたどり着いていないかもしれません。しかし、この編集後記を読んでいるみなさまの周りの子供は、その限りではないでしょう。我が家では、3歳の息子から、隕石はどうしてショウガクセイタイからやってくるの?としょっちゅう聞かれます。

私は、“小学生隊”からとんでくる隕石を想像して、にやりとしています。

津田雄一博士(JAXA・宇宙研)の巻頭言で、はやぶさ2探査計画の経験から、偶発的なチャンスを拾うための“肥料蒔き”の重要性が述べられています。これから始まる小惑星リュウグウの初期分析から、どのような発見がもたらされるのでしょうか。撒かれた肥料により、思ってもないような小惑星の側面が飛び出す結果になるのか、期待せずにはられません。本号には、2020年度最優秀発表賞受賞論文、学位論文紹介が掲載されております。惑星科学のこれからの担う若手研究者の研究が紹介されていますので、ぜひご一読ください。

みなさまからの次号への投稿を、心からお待ちしております。(瀧川)